

実施日：7月9日（1校時） 7月16日（1校時）	
教科等：特別活動	
取組名：「自分らしく生きる」～性の多様性について考える～	
対 象：1年生	実施場所：教室
ア ねらい ・ 「性」が多様であることを知り、生徒一人ひとりが自分のもつ悩みや不安に気付く。 ・ 「性」をはじめとする多様性を認め合う社会の重要性に気付き、その中での自分の生き方を見つめ直す。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 ・ 絵本「王さまと王さま」を使用し、性自認や性的指向に悩む人々に焦点を当て、ありのままの自分の気持ちを受け入れることが、自分らしく生きることにつながると気付かせる。 ・ 2時間目の教材では、性的マイノリティの基礎知識や取り巻く現状等について、理解を深める。また、その過程において、多様性が尊重される社会とはどのようなものか、その社会において自分自身はどのように生きていくのかについて考える機会とする。	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 取組について、ホームページに記載する。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ 事前に学年会議等で指導案等について検討し、教員間での共通認識をもって指導する。 ・ 事前・事後に生徒対象のアンケートを行うことで、指導前後の生徒の変化を読み取り、今後必要な取組について検討する。	
カ 評価の方法 ・ 行動観察 ・ ワークシート	
キ 成果 ・ 事前アンケートから性の多様性についての知識が授業者が想定していたよりも多くの生徒が知らない実態がわかった。それを踏まえて2度の授業を実施した結果、指導後のアンケートで説明できる割合が大いに高まった。 ・ 別紙のように2限目の授業のワークシートから、多様性を認め合う社会の重要性に気付き自分の生き方について見つめ直す生徒が多く見られた。	
ク 課題 生徒対象の事前事後アンケートでは、「対応できるかわからない」と回答した生徒も16.1%から16.7%へと微増している。この結果は、事前アンケートの段階では、打ち明けられることに対して現実味を持てていなかったが、授業を通して、自分ごととしてとらえられるようになり、より現実味が増したことで「対応できるかわからない」の割合が高くなったと考えられる。このことから、今後も普段の教育活動の中で意識することが大切で、さらに継続して取り組んでいく必要があると考える。また、この結果を教職員全体で共有し、今後実施する全校道徳においてもその部分を意識して取り組んでいきたい。	